

八田城(霧山城) (市指定史跡) (松阪市嬉野八田町) (城址公園)

室町時代／嬉野八田町

(はったじょう)

城跡は雲出川の支流、中村川の南側の標高約 58mの丘陵突端部にある。城跡の北側になる八田集落の平地からは、約 34mの高さである。この流域の各地区には、地区名が城跡の名称になっている下流の天花寺城、堀之内城、小川城(中川)があり、上流に釜生田城、森本城、滝之川城がある。その中でも釜生田城、森本城、滝之川城とともに、城跡の全域が残っていて、全体の形状がよくわかる城跡である。

城跡は土塁に囲まれた主郭を中心にして、東と北に小郭がある。主郭の出入り口は東と南にあり、南下の狭い谷に井戸跡がある。更にその南の尾根筋にも東と西に掘切があり、城の範囲が広がる。

八田城についての同時代の史料は見当たらない。近世の地誌である『勢陽五鈴遺響』には、大多和兵部少輔が居たとし、明治年間作成の地誌をまとめたと思われる『伊勢名勝志』には、大多和氏の前身、三浦氏の築城とする。

松阪市教育委員会事務局 文化課

八田城は、鎌倉時代に相模から三浦盛時が来て築城したといわれ、後に大和多と姓を改めたという。正平年間(1346～70)、国司北畠顕能に従い、以後、歴代国司家に属していた。

永禄12年(1569)、織田信長の伊勢侵略の時に、羽柴秀吉がこの城を攻めたが、攻めあぐんだといわれる。

また突然、山手から濃霧が発生して城を覆ったため、地理に詳しい八田城の兵が勝利を得て、秀吉勢は退去するはめになったと伝えられることから別名霧山城ともいう。

天正4年(1576)の国司滅亡後、大和多氏は城を出て下之庄に住み土着し、再び三浦と改めた。

尚、八田城の山麓には、三浦氏の祖三浦大介義明の霊を祭る三浦山義明寺がある

『日本城郭大系10より』



